



外野の日常



嶋原ゆく

昼過ぎ。ゆったりと空を流れゆく雲の下、芝生の上に立つ。白球が飛んでくるのを待っている。

「なあなあ、なんか、あいつら集まってしばらく経つけど何やってんだろ。」

「ん？そうだな。そう言われればちょっと長いかな。」

話していると、内野の一人が一人の肩を乱暴につかんで離す。

「何か揉めてない？」

「…そうだな。」

少し気色ばむが、あまり気にしない様子で言う。

「あいつら、ときどき揉めるよな。」

「ああ。」

外野でもう一人と目くばせし、合図を送る。

「あ、終わった。」

「お、守備戻ろう。」

二人、守備位置に戻る。

(後でベンチでなんか話すんだろうけど…やだなあ。)

心の中で、一つため息。

「っおーい、飛んでくるぞー。気い引き締めろよ〜。」

「ういー！」

気が抜けていたのが見て取れたのか、内野から声が飛んでくる。

その声にはたと気づき、語尾の強い返事をとばす。

外野の日常。

外野の日常

<http://p.booklog.jp/book/106126>

著者 : shigiharayu

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/shigiharayu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106126>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106126>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ